

<総括>

出題数	現代文2題 ・ 古文1題 ・ 漢文1題 (古文・漢文は文学部のみ)	試験時間 120分 (文学部以外は90分)
-----	--------------------------------------	--------------------------

・第一問は、目に見える成果や数値では決して推し計ることができないヒトやモノの内実を見極めることの大切さを、能楽師である筆者自身の体験に基づきながら綴った随筆。

・第二問は、第三者的な立場からの調停を重視する応報刑論という筆者の視座に立って、被害者側と犯人との二元的な対立関係に規定された現在の実害対応型の応報刑論の問題点を批判的に考察した論考。

・受験生にとって簡単であるとは言えないが、第一問、第二問のいずれも本質的な読解力が問われる良質な問題である。

<本文分析>

大問番号	第一問	第二問
出典 (作者)	『舞台のかすみが晴れるころ』 (有松遼一)	『死刑制度と刑罰理論—死刑はなぜ問題なのか』 (井田良)
頻出度合 ・的中等	なし	なし
分量	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	随筆	問一	記述	標準	傍線部の理由説明問題 ※傍線部の前後の文脈で述べられている「本の力」の要点を簡潔にまとめる。
		問二	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※傍線部を含む引用文の内容を踏まえてまとめる。
		問三	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※引用文以降、空行までの箇所の内容を踏まえてまとめる。
		問四	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※空行から傍線部までの箇所の内容を踏まえ、設問の条件にも留意してまとめる。
		問五	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※本文の後半の趣旨を踏まえてまとめる。
二	評論	問一	記述	標準	漢字の書き取り問題 (三題「代替」「抑止」「弁明」)
		問二	記述	標準	傍線部の理由説明問題 ※第二段落の内容を中心に、設問の条件に留意して簡潔にまとめる。
		問三	記述	標準	傍線部の語句を言い換えた七字の表現を抜き出す問題
		問四	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※第四段落から第六段落までの内容を踏まえ、設問の条件に留意してまとめる。
		問五	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※第五段落および第六段落の内容を踏まえる。
		問六	記述	標準	傍線部の内容説明問題 ※第十一段落から第十三段落までの内容を踏まえ、「ミクロな視点」と「マクロな視点」の相違が明らかになるようにまとめる。
		問七	記述	やや難	傍線部の問題提起をその理由を含めて説明する問題 ※リード文の説明にも留意しながら、本文全体の内容を踏まえて説明する。筆者の立場を読み取るのが難しい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一問は、今回は随筆からの出題であったが、前身の大阪市立大で出題されていた小説問題への対策も怠らないようにしておきたい。</li> <li>・第二問は、硬質な評論にあたり、文脈を正しくたどりながら、論旨を的確に把握する練習をしっかりと積み重ねておこう。</li> <li>・本試験の解答欄の大きさを確認したうえで、答案を作成する取り組みが必要である。</li> </ul>
--

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題 (古文・漢文は文学部のみ)	試験時間 120 分 (文学部以外は 90 分)
-----	--	-----------------------------

- ・ 本文分量は昨年より大きく減少した。設問数に変化は見られないが、解答の総数は一つ減少。設問の難易度は昨年とほぼ同じ。設問形式もまた例年通り。
- ・ 文学史や文法の単独設問がないのは、昨年通り。
- ・ 和歌に関する設問は、昨年は見られなかったが、今年度は掛詞を指摘させる形式で出題された。
- ・ 出典は、昨年の説話から擬古物語になった。ただし、登場人物の心情を踏まえた読解が必要とされている点では、変化は特に見られない。
- ・ 記述式説明の設問が中心なので、丁寧な読解が要求されており、重要古語や文法事項を踏まえた読解力が前提とされている。

<本文分析>

大問番号	第三問 (A)
出典 (作者)	『住吉物語』 (作者未詳)
頻出度合 ・ 的中等	出典、出題箇所は頻出
分量	分量 (減少) ・ やや減少 ・ 変化なし ・ やや増加 ・ 増加) 約 1500 字 (昨年約 2050 字)
難易	難易 (易化 ・ やや易化 ・ 変化なし) ・ やや難化 ・ 難化)

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三(A)	擬古物語	問一	記述式	標準	現代語訳。「わかりやすく」という条件付き。5箇所。「ながめける」、「しるくて」、「あやしの所」、「ことわりと思ひて」、「言ひあはすれば」を問う。[解答欄・縦13cm×横1cm×5行]
		問二	記述式	標準	内容説明。「端的に」という条件付き。2箇所共通の「聞きなし」について、どのような行為かを問う。[解答欄・縦13.7cm×横1.5cm]
		問三	記述式	標準	和歌修辭。2箇所の掛詞の説明を問う。[解答欄・縦13.7cm×横2cm]
		問四	記述式	標準	内容説明。「わかりやすく」という条件付き。侍従が「そののち、姫君を失ひまゐらせて」と中将に語った理由を問う。[解答欄・縦13.7cm×横1.5cm]
		問五	記述式	標準	文末の語句補充。「敬語は用いなくてよい」という条件付き。「いかでおるかには」の後に略されている語句を問う。動詞としては「思ふ」以外にも「もてなす、す、あり」なども可、助動詞としては「む」以外に「べし」の連体形も可と思われる。[解答欄・縦6.5cm×横1cm]
		問六	記述式	標準	現代語訳。「誰の『御心ざし』かを明示しつつ、わかりやすく」という条件付き。「御心ざしをば、いかでか思ひ知らせたまはざらむ」を問う。[解答欄・縦13.7cm×横1.5cm]
		問七	記述式	標準	内容説明。「わかりやすく」という条件付き。姫君が中将に対面するのをためらう理由を問う。[解答欄・縦13.7cm×横2.5cm]
		問八	記述式	標準	内容説明。「わかりやすく」という条件付き。尼君が姫君を翻意させようとしている発言の趣旨を問う。[解答欄・縦13.7cm×横3cm]

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・今年度の本文分量は昨年度より減少したが、例年 1000～1600 字程度の長文が課される傾向であり、長文の古文を読み解く練習が必要である。
- ・設問はおおむね記述式で問われるので、記述式の説明答案を作成する練習を積み重ねること。
- ・文法の設問は長らく単独では出題されていないが、現代語訳の設問は文法を踏まえた正確な逐語訳が基本となる。その際に必要な知識なので、しっかりと身につけておくこと。
- ・昨年度と異なり、和歌に関する設問が出題された。まずは出題されるものと考えて、修辭を中心とした学習をしておきたい。

<総括>

出題数	現代文2題 ・ 古文1題 ・ 漢文1題 (古文・漢文は文学部のみ)	試験時間 120分 (文学部以外は90分)
-----	--------------------------------------	--------------------------

・君主がどのような政治を行うべきかについて、馬と君子、舟と水の比喻を用いて論じた文章。人民の生活が安定しないと君主は地位が危うくなるので、君主は人民を愛し善政に努めなければならないと説く。平易な内容で読み取りやすい。馬と君子の関係、舟と水のことを踏まえて君主と人民の関係を理解することがポイント。

・設問数・解答数は今年の4から5に増えた。昨年はなかった比喻の内容を問う問題が出題された。書き下し文の問題は、昨年と同様返り点が付けられたが、新たに「すべて平仮名で記す」という条件が付けられた。説明問題は、昨年と同じく2。現代語訳の問題は昨年と同様1であった。

<本文分析>

大問番号	第三問 (B)
出典 (作者)	『荀子』(戦国・荀況)
頻出度合 ・的中等	稀
分量 (前年の大阪立 大学と比較)	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)(昨年)93字→(今年)136字
難易 (前年の大阪立 大学と比較)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三(B)	思想	問一	記述式	易	比喻の内容を問う問題。傍線部の前半と後半が対句の関係であることに着目し、「馬」に対応する語を抜き出す。
		問二	記述式	易	書き下し文の問題。比較形「莫若～(～にしくはなし)」を押さえて書き下す。
		問三	記述式	やや易	現代語訳の問題。文脈を押さえて「庶人」「安」を正しく訳す。
		問四	記述式	標準	説明問題。「君者舟也、庶人者水也」から、君主を舟に喩え、庶民を水に喩えている点を押さえる。
		問五	記述式	標準	内容説明の問題。[注]の説明に注意して「故君人者」以下の内容をまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

・重要語句と基本句形の知識に習熟し、書き下し文や現代語訳に応用できる力を身につけておくこと。

・文章の構成を考えながら登場人物の考えを正確に読み取り、簡潔にわかりやすくまとめる訓練を積んでおくこと。